

幼稚園教育実習実態調査

谷 直子*, 高橋 裕子**

(平成 19 年 10 月 4 日受理)

The Investigation of the Actual Circumstances of the Teaching Practice at Kindergarten

TANI, Naoko and TAKAHASHI, Yuko

(Received on October 4, 2007)

キーワード：教育実習，保育者養成，保育観

Key words: Teachin Practice, Nurture Person Training, Nurture View

I. 研究目的

教育実習は、大学内での学習内容と実際の保育実践とを結びつける教科である。学生は実習を体験することによって、より具体的な子ども像や保育者像を構築し、自身の保育観を確立するための重要な手がかりとする。ひいては、学生が進路を決める上でも重要なファクターとなる。

ではどのような実習の過程をふむことが、学生の成長にとってもっともよい経験となるのであろうか。前報では、その課題を考える第一段階として現在行っている実習の実態を把握しようとした。その結果、次のようなことが分かった。

- ・部分実習を数回繰り返し半日実習を経験した上で一日責任実習を行うというステップを踏むことで効果的な実習を行うことが出来る。
- ・部分実習で経験した内容が就職までに準備しておくといふと考えることと密接に関連している。
- ・実習を経験したことで実践と理論の統合が促され、新しい学習意欲への動機付けとなっている。
- ・自分自身を振り返り、正しい言葉遣いや社会人としてのマナーを身につけなくてはならないと考えるなど、社会人・保育者としての自覚の芽生えが実習を通して見られた。

今年度はどのような実習のステップを踏むことで学生が満足のいく実習を行うことが出来るのか、実習で学んできていることはどのようなことか、終了後に課題として考えていることは何かを知ることを目的とした。

II. 研究方法：

1. 調査方法：質問紙法

2. 調査対象及び人数

調査対象は、東京家政大学児童学科・保育科に在籍し教職課程を履修している学生である。

幼稚園教育実習終了後ただちにアンケートを実習生全員に実施した。その中から対象としたクラスは平成 18 年度家政学部 3 年生児童学専攻と育児支援専攻、平成 19 年度家政学部 4 年生児童学専攻と育児支援専攻、保育科 1 年生 2 クラスとした。アンケートの有効回答数は平成 18 年度児童学専攻 74 名、育児支援専攻 68 名、平成 19 年度児童学専攻 75 名、育児支援専攻 60 名、保育科 2 クラス 70 名である。

3. 調査年月日

今回の調査は、2 回に分けて 2 週間ずつ計 4 週間実施される実習の 1 回目、2 回目共に実習を終了した直後に実施し、その結果を対象に考察した。実施時期は平成 18 年 11 月と平成 19 年 5 月（学部）、6 月（短大）である。

* 幼稚園教育実習指導室

** 教育実習研究室

4. アンケート

学生に行ったアンケートの項目は次の通りである。

問1. 現在の就職希望を答えて下さい。

問2. 実習園について答えて下さい。

①実習園名 公立・私立 _____ 幼稚園

②勤務状況 出勤所要時間 片道 _____ 時間 分

出勤時刻 _____ 時 _____ 分

退勤時刻 _____ 時 _____ 分

問3. 配属クラスについて答えて下さい。

①希望クラス

②配属クラス 3歳児 _____ 日

4歳児 _____ 日

5歳児 _____ 日

問4. 実習内容について答えて下さい。

①部分実習 _____ 回

〈内容〉1 _____ 2 _____ 3 _____

〈指導計画案〉あり・なし

②半日実習 午前 _____ 回・午後 _____ 回

〈指導計画案〉あり・なし

③全日実習 _____ 回

〈内容〉 _____ 〈指導計画案〉あり・なし

④研究保育 _____ 回

〈内容〉 _____ 〈指導計画案〉あり・なし

問5. 見学・観察・参加実習はそれぞれ明確に分かれて

て行いましたか。 はい・いいえ

「はい」と答えた人は次に記入して下さい。

見学実習 _____ 日 内容 _____

観察実習 _____ 日 内容 _____

参加実習 _____ 日 内容 _____

問6. 今回の実習についてのあなたの満足度を表す場

所に○印を書いて下さい。

1. 実習幼稚園について

満足 _____ どちらともいえない _____ 不満足 _____

理由 _____

2. 配属クラスについて

満足 _____ どちらともいえない _____ 不満足 _____

理由 _____

3. 実習内容について

・部分実習について

満足 _____ どちらともいえない _____ 不満足 _____

・半日実習について

満足 _____ どちらともいえない _____ 不満足 _____

・全日実習について

満足 _____ どちらともいえない _____ 不満足 _____

問7. 実習で勉強になったことはありますか。 具体的に書いて下さい。

問8. 実習中に困ったことはありましたか。 そして、それをどのように対処しましたか。 具体的に書いて下さい。

問9. 実習前に、どのような準備をしましたか。 具体的に書いて下さい。

問10. 実習後、大学に戻ってのあなたの課題はなんですか。 具体的に書いて下さい。

問11. 次の実習に向けてどのような準備が必要だと思いますか。 具体的に書いて下さい。

問12. 保育者としてのあなた自身の姿を絵で描いて下さい。

問5. から問11.までは前回のアンケートを変更し新しく加えた設問である。

Ⅲ. 結果と考察

前回はステップを踏んでいる学生とステップを踏んでいない学生の2つに分け、自由記述の中からキーワードになるものを拾い出し「実習のステップに関して」「実習の内容に関して」「就職に必要なことに関して」の3項目に分けて考察した。今回は実習のステップと満足度の相関関係を中心に分析と考察を行った。

【実習のステップ】

実習のステップについて更に詳しく把握しようと問5の設問を新しく加えた。ところが「見学・観察・参加実習が明確に分かれていた」と答えた学生は205名中1割弱の21名であった。見学実習、観察実習、参加実習という3段階の実習が明確には分かれていない実習園が圧倒的に多いことが分かった。

前回はアンケート問4の回答から「ステップを踏んだ学生」と「ステップを踏まずに実習した学生」に分けて

見ていった。「部分実習」を数回繰り返しながら子ども達の実態を把握し、午前午後の「半日実習」を経験し、「一日責任実習」と進んだ学生を「ステップを踏んだ学生」と定義した。それ以外の形で実習を行った学生を「ステップを踏まずに実習した学生」と定義した。

今年度は集計をしていく時点で前回分けた2分類どとはっきり傾向が掴みきれなかったので、更にもう一段階加えて次のような3段階に分けた。

部分実習を2回以上、半日、一日責任実習を各1回以上行った学生をAグループとした。「部分実習」「半日実習」「一日責任実習」を種類を問わず合計4回以上行っている学生はBグループ、4回未満の学生をCグループと分類した。

【実習のステップと満足度】

アンケートの問6の結果を集計したものが表1である。実習園についてと配属クラスについてA、B、Cグループ共に約7割から8割5分の学生が満足と答えている。そして、不満足と答えている学生はどの項目も1割以下である。

これらのことから、どのステップを踏んだ学生も実習全体の満足度は高いと言えよう。それぞれのグループのその理由の記述も満足という内容が多く見られた。

Aグループ「先生方の子どものとの関わり方が子どもと一緒にあってその中で子どもの思いを受け止めたりいけないことはいけないと伝えたり理想的だった。また、実習生に対しても暖かく熱心に指導して下さった」

Bグループ「子ども達が伸び伸びと元気に遊んでいて先生方がとても良い保育をなさっていた」

Cグループ「とても暖かい雰囲気ので安心して実習できた」

2週間という短い実習の間に幼稚園に対して信頼を寄せていることがこれらの文章から読み取れる。これは、長い年月かけて開拓してきた多くの実習園とそこで行われる実習内容が適当であることの現れであると思われる。

次にステップ別に見てみると、Aグループは全体の満足度がやはり高く不満足と感じている学生は少ないことがわかる。半日実習の満足度2が8%、1が6%となっている。これは一見他のグループより割合が高くなっているように見えるが、B、Cグループでは半日実習を行っ

表1. グループ別実習の満足度

グループ	満足度	5		4		3		2		1	
A	実習園について	40	80%	4	8%	4	8%	0	0%	1	2%
	配属クラスについて	41	82%	1	2%	7	14%	0	0%	0	0%
	部分実習	30	60%	10	20%	10	20%	0	0%	1	2%
	半日実習	20	40%	10	20%	12	24%	4	8%	3	6%
	前日実習・研究保育	22	44%	8	16%	14	28%	1	2%	2	4%
B	実習園について	72	70%	26	25%	8	7%	2	1%	1	1%
	配属クラスについて	84	82%	11	10%	9	8%	3	2%	0	0%
	部分実習	52	50%	30	29%	24	23%	8	7%	3	2%
	半日実習	13	12%	5	4%	7	6%	5	4%	3	2%
	前日実習・研究保育	37	36%	25	24%	25	24%	8	7%	4	3%
C	実習園について	40	75%	6	11%	5	9%	0	0%	3	5%
	配属クラスについて	41	77%	3	5%	7	13%	1	1%	1	1%
	部分実習	14	26%	11	20%	11	20%	3	5%	4	7%
	半日実習	2	3%	3	5%	2	3%	2	3%	3	5%
	前日実習・研究保育	12	22%	8	15%	8	15%	3	5%	6	11%

ていない学生も少なくないことを考えると半日実習をしっ
かり行っている反映であるとも言えよう。この、満足度
2、満足度1にマークした学生の50パーセントが全日
実習は満足度3以上にマークしている。記述を見てみる
と「部分実習や半日実習の反省を活かして全日実習が出
来た」「半日実習は失敗ばかりしていて不甲斐なかった
が全日実習ではそれが少しは改善できた」等と書いてお
り、半日実習は不満足であったがその反省を全日実習に
活かすことが出来たことで満足度が上がっていることが
わかる。なので、この満足度1、2の評価も実習の一過
程での評価と受け止めることができよう。Aグループの
学生はこの半日実習を行う前に部分実習も2回以上行っ
ている。部分実習を行ってから半日実習を行い最後に全
日実習を行うことにより最終段階の責任実習では満足で
き、学生自身が納得できる結果を得られている。3段階
のステップをきちんと踏んで実習が行われている効果が
ここにも認められると言えよう。

この、自分で満足がいく実習を行えたという点は大事
なことであると思われる。「自分もやれば出来る」とい
う満足感は自信に結びつくことである。ある程度の自信
は保育の仕事に意欲的に取り組もうという気持ち、大学
に戻ってもっと、勉強しようという意欲につながるもの
であるし、学生が職業を選択する上でも大きな影響を与
えると思われる。実習後に反省会を行うと自分が保育者
に向いているか見極める際に実習での経験を大きな判断
材料としていることが分かる。学生の人生に大きな影響
を与える可能性がある実習であるとするなら、やはりある
程度の満足度を学生自身が感じられる、実習のステップ
を踏むのが望ましいと言えよう。

Bグループを見てみると部分実習、半日実習、全日実
習の満足度5にマークした学生がそれぞれ50%、12%、
36%と部分実習の満足度が断然高くなっている。これは、
日程の都合上、一日責任実習や半日実習は行えないがそ
の分、部分実習を多く行うという園もあり、Bグループ
の学生は多くの部分実習を行った学生が大勢いることの
反映と思われる。

Bグループ102名のうち5回以上の部分実習を行った
学生が52名で50%。そのうち、8回以上は30名で29%、
ほぼ毎日17名で16%である。これは予想を大きく上
回る数値であった。部分実習が一日一回と仮定すると実
習日数の5分の4以上の部分実習を約3割の学生が行っ
ていることが分かる。このグループの学生は子どもの前

に立つ機会を多く得ている学生と言えよう。

部分実習を16回行った学生は「前に出て何かするの
が苦手だったけれど、回数を重ねて慣れていったし実践
しないと分からないことを多く学べた」と記述している。

日程などの関係でAグループのように3段階のステッ
プを踏めない場合には、その不足する部分を補うよう部
分実習の回数を多く行うなどの実習を充ててもらうこと
は有効であることがこれらの結果から読み取ることが出
来る。

Cグループになると部分実習、半日実習、全日実習の
満足度5がそれぞれ26%、3%、22%とAグループBグ
ループに比べて急に満足している学生の割合が低くなる。
部分実習、半日実習、全日実習のそれぞれ満足度3~1
にマークした学生がそれぞれ、33%、13%、32%と不
満足の傾向の学生が他のグループに比べぐんと多くなっ
ている。これは全日実習が出来なかった学生や部分実習の
回数が少ないことによって「全日実習の前に半日実習が
なかったので難しかった。」等の不満をもったまま実習
を終えたためと思われる。

A、B、Cグループのそれぞれの結果から見ても、や
はり部分実習を数回行い、半日実習を経て全日実習を行
うというステップを踏む実習が実習の段階としては望ま
しい。そしてAグループのように3段階のステップを踏
むことが日程や園の都合で難しい場合はその不足する部
分を補う実習を充ててもらうことが有効であると結論づ
けられよう。

【実習で学んだこと】

次に、アンケート問7から学生が実習で学んできたこと
を見ていきたい。学生が記述したものからその内容によ
って分類した結果をまとめたものが表2である。

全体に、言葉掛け・声かけに関して、保育者の援助に
ついて勉強になったという声が多く上がった。

これは1回目の実習も2回目の実習も共通している。

学生の記述は「言葉かけの仕方、タイミング、間を学
んだ」「一人一人にあった声かけや援助の大切さ」とい
う漠然としたものから「保育者が配慮して声かけしてい
ること、いかに子どもが興味をもち、楽しさや期待感をも
てるような声かけをするかということ」「片づけなど
次の活動に移る時に声のかけ方によって子どもの動きが
変わってくるということ」「子ども達が自分の頭で考え、
行動出来るように指示・禁止・命令・許可につながら

いような言葉かけの仕方」「前回の観察実習よりもたくさんの子どもの言葉かけをしたり触れ合えたり出来たので子ども一人ひとりに月齢差や個人差があることがよく分かり、場面場面、一人一人に応じて言葉かけを変えていきたいと思った」などの保育者の声かけ、援助をよく見ていることがわかるような内容まで多岐にわたっていたが、学生達の目がいくところが実習園の先生の声かけ・援助なのであろう。

この記述の内容に関しては各グループでの差はあまり感じられなかった。

Cグループの中でも「保育者の言葉かけには全て意図があり、子どもの行動にも全て意味があることを知った。今まで特別考えたことがなかったが一つ一つ「何でかな?」と問われ考えさせられた」や「それぞれの年齢や個人の発達に合わせたの声かけがとても大切でそれは、子どもとよく関わりよく見ないと理解できない」等、保育の大事な部分に目を向けられている記述が見られた。これは、言葉かけ、保育者の援助といった保育者を見ることで学ぶことが出来る部分に関してはどのような実習のステップを踏んだかということは影響を受けにくいからだと思われる。

グループ別に見てみると、Aグループで2位の「個と全体」が全体では5位となっている。これはAグループの学生は半日実習、責任実習までしっかり行っており、B、Cグループの学生に較べて子どもの前に立って学級全体を動かす機会がきちんとあったこと、しかもステップを踏んでいることで学級全体への働きかけと個人への働きかけのバランスをとることがいかに難しいかということを経験し、そのことが重要であるということにまで目が向いた結果「個と全体」が上位に入ってきたと思われる。

全体で7位の「指導案」がCグループでは0人である。これはCグループの学生が最も指導案を書く機会が少なかったためと思われる。指導案を書くことを通して身に付けていく、ねらい及び内容の捉え方、子どもの姿の捉え方、保育を見る重要なポイントなどがあるので指導案を書く実習の機会があることはやはり、大切である。

学部3年生は児童学一クラスのみをまとめた。上位2項目については同じ順位となったが3位からは、かなり順位が違ってきた。

3位は全体で7位の「環境」である。「幼児教育における環境構成の重要さと意味を知った」「環境の大切さ、

表2-1：実習で学んだ事
(1回目の実習)

項目	学部3(74)	
言葉かけ・声かけ	23	31%
保育者の援助	13	18%
子どもとの関わり	5	7%
幼児理解	3	4%
個と全体	6	8%
環境設定	8	11%
指導案	3	4%
ねらい	5	7%
学級全体での動き	5	7%
保育者の展開	6	8%
保育者の立場	4	5%
保育全般	6	8%
保育の難しさ・大変さ	1	1%
子どもの思いに寄り添うこと	1	1%
臨機応変に対応する	0	0%
見通しをもつこと	0	0%
絵本や紙芝居	1	1%
子どもの姿	1	1%
供感すること	0	0%
子どもと一緒に楽しむ	0	0%
メリハリのある援助	0	0%
安全面	1	1%
活動内容	0	0%
基本的な社会のルール	0	0%
統合保育について	2	3%
準備の大切さ	0	0%
合計	94	127%

表2-2：実習で学んだ事（2回目の実習）

項目	Aグループ(50)		Bグループ(102)		Cグループ(53)		合計(205)	
言葉かけ・声かけ	20	400%	35	194%	12	92%	67	186%
保育者の援助	5	100%	18	100%	13	100%	36	100%
子どもとの関わり	5	100%	14	78%	6	46%	25	69%
幼児理解	1	20%	11	61%	10	77%	22	61%
個と全体	6	120%	8	44%	7	54%	21	58%
環境設定	5	100%	5	28%	5	38%	15	42%
指導案	5	100%	8	44%	0	0%	13	36%
ねらい	2	40%	6	33%	4	31%	12	33%
学級全体での動き	4	80%	6	33%	2	15%	12	33%
保育者の展開	5	100%	5	28%	2	15%	12	33%
保育者の立場	5	100%	5	28%	1	8%	11	31%
保育全般	2	40%	5	28%	2	15%	9	25%
保育の難しさ・大変さ	3	60%	4	22%	2	15%	9	25%
子どもの思いに寄り添うこと	3	60%	4	22%	0	0%	7	19%
臨機応変に対応する	2	40%	3	17%	1	8%	6	17%
見通しをもつこと	2	40%	3	17%	1	8%	6	17%
絵本や紙芝居	3	60%	3	17%	0	0%	6	17%
子どもの姿	1	20%	0	0%	4	31%	5	14%
供感すること	2	40%	2	11%	0	0%	4	11%
子どもと一緒に楽しむ	1	20%	3	17%	0	0%	4	11%
メリハリのある援助	2	40%	1	6%	1	8%	4	11%
安全面	0	0%	2	11%	0	0%	2	6%
活動内容	0	0%	2	11%	0	0%	2	6%
基本的な社会のルール	0	0%	1	6%	0	0%	1	3%
統合保育について	1	20%	0	0%	0	0%	1	3%
準備の大切さ	1	20%	0	0%	0	0%	1	3%
合計	86	1720%	154	856%	73	562%	313	869%

遊びたいときに遊べる場所が確保されていること、何かを作りたいときに材料があることなど環境一つで子どもの遊びは広がる感じた」などの記述が見られた。初めて幼稚園実習で、環境によって子ども達の動きや遊びの展開が異なってくる様子を目の当たりにして大学の授業の中で学んだ環境の大切さ、意味がこういう事だったのかと知ったのであろう。その、新鮮な驚きにより3年生で上位となったと思われる。1回目の実習でこの学びを得られたことは大きな意味があると思われる。2回目には指導案を立てて責任実習まで行うがその際に「環境」のもつ意味を感じ取っていないと指導案を立てる段階で、環境構成まで考えておくことの重要性に気付くことが出来ないであろう。1回目と2回目の実習の間の授業にも、その視点をもって臨めることは2回目の実習に行く前に様々な環境に関する事を考える視点を獲得機会になると思われる。

4位は3項目が同数で並んだ。全体で12位の「保育全般」8位の「保育の展開」5位の「個と全体」である。「幼稚園の一日の流れや生活の様子を把握することが出来た」「保育者がどのようにして保育を考えていくのかわかった」との記述に見られるように、初めて幼稚園で実習を行ったので幼稚園教育の全体像をつかんだことを実習の手応えと感じたからであろう。

これらのことから一回目の実習では幼稚園教育の全体的なことを学び、二回目の実習ではより、保育の中の細かい部分まで見る事が出来るようになっていっていることが分かる。

学生の記述から実習を行って今まで授業の中で大事だと学んだことが改めてそうなのだと気付いていることが分かる。

【大学に戻っての課題】

アンケートの問10、大学に戻ってからの課題は何かという質問に対しての答えを学部生に絞って集計した。その結果が表3である。「1、教材研究及びその製作」「2、手遊び」「3、ピアノ」など、実際に保育の中で目に見える形で求められるものが上位を占めた。

「1、教材研究及びその製作」は1回目の実習から2回目の実習で10%増加している。これは自分が子ども達の前に立ってみて自分が思っていたようには実際には出来ないこと、レポーターが少ないことに気付いたこと。そして就職が目の前に迫ってきたことにより保育者

になった時にすぐ使える教材や活動内容の知識が必要と感じたからであろう。

学生の記述を見てみると「主な活動の内容を探しておく。あまりにもレポーターが少なすぎる」「保育者になるものとして自分の引き出しを増やすこと」「担任となるべく、教材準備やピアノの練習をする。」「今後の保育に活かせる活動を考える、また、必要なもの(パネルシアター等)の作成」と実際に自分が保育者として働くのに困らないよう準備をしなければと感じていることが読み取れる。

「10、保育についての理解・考えを深める」は項目1, 2, 3, 4の具体的な保育技術に関する事を除くと最も多くの学生が挙げている項目である。1回目と2回目と違う園での実習を経てそれぞれの園の保育の違いを感じ、「個と集団の子ども達を尊重した保育を考える」「様々な保育に関する本を読み保育に関する視野を広げる」「卒論のテーマである保育者の援助により深く取り組み将来に活かしたい」等、その学生なりの課題を見いだしていることが読み取れる。実習で実際に子ども達、保育者と過ごしたことで自分なりの学習課題を見つけ出していることは実習の成果の一つと言える。このことは大学へ戻って学習意欲への動機づけとなるとと思われる。「様々な課題が見つかった。その課題を課題のままで終わらせるのではなく授業内容と結びつけて自分のものにしていきたい」「こどもの姿をイメージして授業を受けようと思う」「実践の場を作り、大学での勉強と実践でのこどもの姿を結びつけていく」などの記述が見られ、実習を行ったことで実践と理論の統合が促され新しい学習意欲への動機付けとなっていることがうかがえる。

「7、発達段階についての理解」「9、保育知識の復習」は1回目と比べ2回目が減っている項目である。これは一回目の実習では4歳児と5歳児がそれぞれどんなことが出来るのか分からずに戸惑い「年齢ごとの発達段階を理解すること。何歳では何が出来るかなどもっと知っておくべきだ」と感じたようである。「幼稚園教育要領をもっとよく勉強する」という記述も数名の学生がしていた。実習を行って改めて幼稚園教育が幼稚園教育要領に基づいて行われていることに気がついたのであろう。「今まで目を通していない教科書を読み一から学ぶこと。現場も大事だが知識も必要と気付いた」との記述もみられた。授業で学んでいることが保育の場に身を置くことで初めて身近なもの、知っておくべきものとして捉えら

表3-1:大学に戻っての課題（保育に関する事柄）

項目	1回目(3年142名)		2回目(4年135名)		合 計	
1 教材研究とその製作（パネルシアター等）	28	19%	40	29%	68	24%
2 手遊びのレパートリーを増やす	29	20%	26	19%	55	19%
3 ピアノの練習	41	28%	33	24%	74	26%
4 保育技術を磨く	24	16%	20	12%	44	15%
5 保育観の確立（保育者像・子ども像）	8	5%	10	7%	18	6%
6 子どもとの関りを増やす	6	4%	3	2%	9	3%
7 発達段階についての理解	16	11%	9	6%	25	9%
8 幼児理解	16	11%	10	7%	26	9%
9 保育知識の復習	8	5%	4	2%	12	4%
10 保育についての考え・理解を深める	19	13%	16	11%	35	12%
11 学校での勉強を頑張る	13	9%	7	5%	20	7%
12 障害について学ぶ	5	3%	1	1%	6	2%
13 実習を振り返る	5	3%	7	5%	12	4%
合 計	218	147%	186	130%	404	145%

表3-2:大学に戻っての課題（自分自身に関する事柄）

項目	1回目(3年142名)		2回目(4年135名)		合 計	
14 進路を考える・試験勉強をする	4	2%	16	11%	20	7%
15 表現力を身につける	9	6%	7	5%	16	5%
16 判断力・考える力を身につける	6	4%	4	2%	10	3%
17 生活経験を豊かにする	5	3%	5	3%	10	3%
18 視野を広げる	6	4%	4	2%	10	3%
19 感性を磨く	6	4%	2	1%	8	2%
20 社会人としてのマナーを身につける	2	1%	2	1%	4	1%
21 体力をつける・体調管理	3	2%	1	1%	4	1%
22 自分を知る	0	0%	2	1%	2	1%
23 コミュニケーションする力をつける	0	0%	1	1%	1	0%
24 その他	0	0%	3	2%	3	1%
合 計	41	26%	47	30%	69	27%

れたのであろう。

全体を通して1回目の実習より2回目の実習の方がより具体的な内容の記述となっている。これは実際に子ども達の前に立つことで思っていたようには、自分が出来ないということがわかり、それを課題として意識できた

こと、そして就職が身近に感じられるようになり「保育者になるには」という視点で自分を振り返ることができるようになったからであろう。

IV. 結果と今後の課題

以上のようなことから次のことがわかった。

1. 学生の満足度は部分実習を数回繰り返し半日実習を経験した上で一日責任実習を行うというステップを踏んだ学生のグループが最も高かった。
2. 日程などの関係でAグループのように3段階のステップを踏めない場合はその不足する部分を補うように部分実習を回数多く行うなどの形で実習を充ててもらふことは有効である。
3. 実習で学ぶ内容については、保育者の援助や声かけなどに関しては実習のステップによる差はほとんど見られなかった。「個と全体」や「指導案」など、実際に子ども達の前に立つことや書くことによって学べることに關してはステップを踏んできている学生の方が優位の学びをしている。
4. 大学に戻っての課題「教材研究及びその作製」「手遊び」「ピアノ」など実践的な事柄が多く挙げられ

た。一回目より二回目の実習の方がより具体的な内容の記述となっている。自分がやってみて、レパートリーが少ないことに気付いたり、思っていたようには自分が出来ないことに気付いたりしたこと。そして就職がより身近に感じられるようになったことが要因と思われる。

今後の課題として次のことに取り組んでいきたい。

1. 学生の成長が分かるように、数名の抽出学生を詳しく追ってみる。
2. 過去にとったアンケートのデータも活用していく。

〈参考文献〉

赤田博・野村知子編著「教育・保育実習総論」
保育者養成研究会「幼稚園教育実習記録」

Summary

What kind of practice is the most useful for the students who wish to be kindergarten teachers? Following the previous investigation to address this issue, we have advanced the research in order to understand what they have learnt from practice. We have found that i) students are satisfied most with the one-day practice with responsibility, ii) it is very useful to compensate the students who could not follow all steps for their shortage, iii) students who followed more steps have learnt more on the issues such as the teaching plan and the relation of the individual to the whole issues such as the teaching plan and the relationship of the individual to the whole group, iv) problems which they recognized when they return to the campus become more specific after the second step of practice than after the first.